

侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生にご注意ください！

令和3年3月22日
京都府病虫害防除所
京都府農林水産部農産課

生産園地において本種を見つけた場合には、直ちにお近くの農業改良普及センターまたは病虫害防除所までご連絡ください



クビアカツヤカミキリ♂成虫
浦野忠久氏（森林総合研究所）提供



クビアカツヤカミキリ幼虫
浦野忠久氏（森林総合研究所）提供

- ◆ 関東、中部、近畿、四国地方の11都府県のサクラ、モモ、ウメ等で侵入害虫クビアカツヤカミキリの被害が拡大しています。
- ◆ 京都府内での発生は確認していませんが、隣接する大阪府、奈良県では確認されており、今後、京都府内でも発生する可能性がありますので、発生に十分警戒してください。

■ 成虫

原産地は中国。体長は、約2.5～4センチ。
全体的に光沢のある黒色で、胸部は赤色です。

■ 寄主作物

モモ、ウメ、カキ、サクラなど

■ 生態と被害状況

- (1) 幼虫がモモ、ウメ、サクラなどの生木の内部を食害し、樹勢を低下させます。その際、うどん状のフラス（木くず）を排出します（3～10月頃）。**被害が激しい場合は、枯死に至ることもあります。**
- (2) 幼虫は、幹の中で2～3年かけて成長し、蛹となります。
- (3) 6月中旬～8月上旬頃にかけて成虫となり幹の外へ脱出します。



幼虫が排出する
うどん状のフラス



幼虫が食害した被害樹断面



成虫の脱出痕
(羽化した跡)

■ 防除対策

- (1) 5～6月頃、樹幹をよく観察し、フラスを確認した場合には、成虫の発生時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。
成虫を見つけた場合は捕殺します。
- (2) **幼虫は登録薬剤（表1）を用いて防除します。** 薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、**薬液が幼虫に十分かかるように**します。
- (3) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、**成虫の発生時期前（9～5月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを2mの高さまで樹幹に巻き付け（密着させないように）、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺します。**



防虫ネットの設置

加賀谷悦子氏（森林総合研究所）提供

幼虫の食害が激しい樹では、伐倒により成虫の発生を防ぎ、周辺への被害拡大を抑えることができます。伐倒した樹はすぐに焼却もしくはチップ化し、地際部に幼虫が残っている可能性があるため、切り株は抜根などの処理を行います。

■ 登録薬剤 ※ 表1 もも、うめ、かき、なしでクビアカツヤカミキリの防除に使用できる薬剤（令和3年2月26日現在）

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	農薬の総使用回数	
もも	3A	ベニカミキリムシエアゾールロビンフット	かきキリムシ類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 10回以内(噴射は5回以内、散布は5回以内)	
	-	ハイオセーフ	クビアカツヤカミキリ	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	-	-	
	21A	ハチハチフロアブル		希釈倍率	成虫発生期但し、収穫前日まで	2回以内	トルフェンピラトを含む農薬の総使用回数 2回以内	
	1A	オリオン水和剤40		1000倍	成虫発生期但し、収穫14日前まで		アラニカルブを含む農薬の総使用回数 2回以内	
	1B	スプラサイト水和剤		1500倍	200倍	散布	収穫21日前まで	DMTPを含む農薬の総使用回数
		スプラサイトM		200倍		樹幹部及び主枝に散布	収穫60日前まで	4回以内(200倍希釈散布は2回以内、1500～2000倍希釈散布は2回以内)
	28	テッパン液剤		2000倍	2000倍	散布	収穫前日まで	シクラリプロールを含む農薬の総使用回数 2回以内
	4A	ダントツ水溶剤 ヘニカ水溶剤					収穫7日前まで	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数 3回以内
		アクタラ顆粒水溶剤					収穫前日まで	チアトキシムを含む農薬の総使用回数 3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤					収穫前日まで	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数 3回以内
うめ	1B	スプラサイト水和剤		1500倍	散布	収穫14日前まで	2回以内	DMTPを含む農薬の総使用回数 2回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内	チアトキシムを含む農薬の総使用回数 2回以内	
		ダントツ水溶剤 ヘニカ水溶剤			収穫前日まで	3回以内	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数 3回以内	
	1A	オリオン水和剤40	1000倍	散布	成虫発生期但し、収穫7日前まで	3回以内	アラニカルブを含む農薬の総使用回数 3回以内	
	22B	アクセルフロアブル			収穫前日まで	3回以内	メタフルミンを含む農薬の総使用回数 3回以内	
	-	ハイオセーフ	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	-	-	-	
かき	3A	ベニカミキリムシエアゾールロビンフット	かきキリムシ類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 8回以内(噴射は5回以内、散布は3回以内) 7回以内(噴射は5回以内、散布は2回以内)	
なし	1B	トラサイトA乳剤	かきキリムシ類	希釈倍率 200倍	樹幹部に十分散布	5回以内	マラソンを含む農薬の総使用回数 5回以内(休眠期は1回以内) MEPを含む農薬の総使用回数 6回以内	
果樹類	-	ハイオリサ・カミキリ	クビアカツヤカミキリ	使用量 1樹当たり1本	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。	-	-	
もも(伐倒木)、 うめ(伐倒木)	8F	NCS	クビアカツヤカミキリ幼虫	被覆内容積1㎡当り原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	1回	カーハムを含む農薬の総使用回数 1回	
もも(枯損木)、 うめ(枯損木)		キルバー40	クビアカツヤカミキリ	被覆内容積1㎡当り原液750～1500ml	加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定量量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し所定期間くん蒸する。	1回	カーハムナトリウム塩を含む農薬の総使用回数 1回	

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee(殺虫剤抵抗性対策委員会)がとりまとめた分類コード

※ 農薬の選択に当たっては普及センター、JA等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。

なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を確認してください。

【サクラ等に使える薬剤記載版）

■ 防除対策

- (1) 5～6月頃、樹幹をよく観察し、フラスを確認した場合は成虫の発生時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。**成虫を見つけた場合は捕殺**します。
- (2) **幼虫は登録薬剤（表1）を用いて防除**します。薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、**薬液が幼虫に十分かかるように**します。
- (3) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、**成虫の発生時期前（9～5月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを2mの高さまで樹幹に巻き付け（密着させないように）、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺**します。



防虫ネットの設置
加賀谷悦子氏（森林総合研究所）提供

幼虫の食害が激しい樹では、伐倒により成虫の発生を防ぎ、周辺への被害拡大を抑えることができます。伐倒した樹はすぐに焼却もしくはチップ化し、地際部に幼虫が残っている可能性があるため、切り株は抜根などの処理を行います。

■ 登録薬剤 ※

表1 サクラでクビアカツヤカミキリの防除に使用できる薬剤（令和3年2月26日現在）

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	農薬の総使用回数	
さくら	6	リハイブ	クビアカツヤカミキリ	樹幹部に注入孔をあけ、注入器の先端を押し込み樹幹注入する	発生前～発生期	1回	エマメチン安息香酸塩を含む農薬の総使用回数 1回	
	3A	園芸用キンチョールE		【専用ノズルつけかえ方式】容器のボタンを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する 【2ウェイノズル方式】折り畳まれた専用ノズルを引き上げ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する			フェプロロトリンを含む農薬の総使用回数	
	4A	ウッドスター		樹幹注入	新葉展開後～落葉前まで	3回以内	ジノテフランを含む農薬の総使用回数 5回以内	
		アトラック液剤					幼虫発生前～幼虫発生期	チアトキサムを含む農薬の総使用回数 3回以内
	4A	モスピラン顆粒水溶液		散布	希釈倍率 2000倍	発生初期	5回以内	アセタフリドを含む農薬の総使用回数 5回以内（樹幹注入は1回以内）
								200倍
	200倍	2000倍		成虫発生初期	6回以内	クロチアジンを含む農薬の総使用回数 6回以内		
	50倍					1000倍	成虫発生期	4回以内
	1A	オリオン水和剤40		散布	成虫発生初期			
	22A	トルネードE-SDF				成虫発生直前～成虫発生期	メタルミンを含む農薬の総使用回数	
	22B	アケセルフロアブル		主幹から株元に散布	200倍	-	6回以内	6回以内
	28	ダブルトリガー液剤		散布	2000倍	発生初期	2回以内	シクラリプロールを含む農薬の総使用回数 2回以内
さくら、食用さくら(葉)	-	バイオリサ・カミキリ	使用量 1樹当たり1本	主幹又は主幹の分枝部分に巻き付ける。	成虫発生初期	-	-	
	-	バイオセーフ	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入		幼虫発生期	-	-	
さくら(伐倒木)	8F	NCS	クビアカツヤカミキリ幼虫	使用量 被覆内容積1㎡当り原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	1回	カーハムを含む農薬の総使用回数 1回	
さくら(枯損木)		キルパー-40	クビアカツヤカミキリ	被覆内容積1㎡当り原液750～1500ml	加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し所定期間くん蒸する		カーハムナトリウム塩を含む農薬の総使用回数 1回	
樹木類(伐倒木)	1B	バインサイドS油剤D ヤシマパークサイドF	カミキリムシ類	本剤をそのまま伐倒木樹皮の表面に表面積1㎡当り400～600mlの割合で散布する。	-	-	MEPを含む農薬の総使用回数	
		バインサイドS油剤C ヤシマパークサイドオイル		希釈倍率 40倍～60倍（灯油で希釈）				本剤の所定希釈液（灯油で希釈）を伐倒木樹皮の表面に表面積1㎡当り400～600mlの割合で散布する
樹木類(倒木、伐倒木)	-	スミパイン乳剤	カミキリムシ類（スキカミキリを除く）	50倍～150倍	散布	伐倒・風倒直後樹皮下及び材内生息期	6回以内	
樹木類	3A	ヘニカカミキリシエアゾール ロビンフット	カミキリムシ類 成虫 クビアカツヤカミキリ(さくら)	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	-	6回以内	フェプロロトリンを含む農薬の総使用回数	
							噴射	成虫発生初期

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee(殺虫剤抵抗性対策委員会) がとりまとめた分類コード

※ 農薬の選択に当たっては普及センター、JA等と相談し、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。
なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を確認してください。

クビアカツヤカミキリの疑いのある害虫発見時の問い合わせ先

■生産園地で発見した場合

公所名	電話番号
京都乙訓農業改良普及センター	075-315-2906
山城北農業改良普及センター	0774-62-8685
山城南農業改良普及センター	0774-72-0237
南丹農業改良普及センター	0771-62-0665
中丹東農業改良普及センター	0773-42-2255
中丹西農業改良普及センター	0773-22-4901
丹後農業改良普及センター	0772-62-4308
病虫害防除所	0771-23-9512

■森林で発見した場合

公所名	電話番号
京都林務事務所	075-451-5724
山城広域振興局森づくり振興課	0774-21-3450
南丹広域振興局森づくり振興課	0771-22-1017
中丹広域振興局森づくり振興課	0773-62-2586
丹後広域振興局森づくり振興課	0772-62-4306